



遠野木工団地は どのような状況か

菊池 邦夫 議員
(新興会)



遠野の地域材のさらなる利用促進を(木工団地の全景)

問 「協同組合森林のくに遠野・協同機構」は、木工団地の要となるべき組織であるが、うまく機能されているか。

答 また、団地全体としての大きな課題は何か。協同機構は、木工団地における林

業、木材産業振興の総合力を発揮する司令塔としての役割を担うことを期待し設立されたが、そこまでに至っていない。協同機構や関係団体との連携の在り方が重要であり、役割を明確化しながら再構築を図っていききたい。木工団地の課題は、

販路の拡大、需要の創出が最も重要である。市としても、学校施設や市営住宅等公共施設の地域材利用促進を図り、経営支援に努めていく。

問 住民の生活を支える道路、その中でも大きな位置を占める橋の維持管理の状況、修繕計画の策定については。

答 市が管理する橋は、市道に架かる橋が476、農道林道に架かる橋を併せて503の橋がある。目視点検であるが、平成21年度から23年度の3カ年で点検調査を行い、これをもとに平成24年度に修繕計画を策定し順次補修を行っていく。調査の対象から外れている橋については定期的パトロール等において、安全な橋の保全に努めていく。

問 高齢化社会を迎え、施設入所待機者は今後増加が見込まれる。本格的な対策が必

要と考えるが。

答 高齢者が住み慣れた地域で在宅生活を送れるような支援をし、地域密着型サービスに取り組んできた。しかしながら、高齢化率の上昇に伴い、一人暮らし高齢者、高齢者のみの世帯数も年々増加し、要介護状態となつて在宅で暮らしていくことが困難な高齢者が増加していくことが予想される。在宅介護を中心としながらも、一定量の施設整備は必要と考え、平成23年度には特別養護老人ホーム30床を増床整備するほか、認知症高齢者のグループホーム2ヶ所(18床)を開設する。